令和６年度神奈川県立小田原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和６年度神奈川県立小田原支援学校第４回学校運営協議会		
開催日時	令和７年２月 25 日（火）10：00～12：00		
開催場所	神奈川県立小田原支援学校　応接室		
出席者	委員８名（欠席２）　事務局７名		
次回開催予定日	令和７年５月 21 日（水）（予定）　10：00～12：00		
問合せ先	小田原支援学校湯河原校舎　副校長　杉山 電話　0465－60－1800(直通)　FAX　0465－60－1805 本校（小田原校舎） 電話　0465－37－2758(直通)　FAX　0465－37－5356		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
有識者による評価 （第三者の視点）	（鈴木会長） ・県西地区唯一の特別支援学校として、2 つの課程、3 つの校舎・分教室を持つ大規模校でありながら、教育活動全般において児童生徒一人ひとりの自立と社会参加に向けて細かなところまで目を配り、具体的に丁寧に取り組んでいる。近隣小学校との人事交流を含む研究では 2 年目にして成果を上げており、今後の地域との協働についてのモデルケースとなっている。 （川端副会長） ・学習指導、指導・支援、進路指導、管理運営等、あらゆる課題解決に取組みどれも実践的であり、一定の効果が表れていると感じました。特に地域との共同に関しては、人的交流、研修、情報の共有化が今年度とても前進し、より具体的になったと思いました。令和 5 年度新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行してから、学校行事の再開を含め様々な人とのふれあいが活発になったと改めて感じました。		
審議(会議)経過	会場参加及び ZOOM によるオンライン参加のハイブリット開催 出席委員　　会場参加：３名、オンライン参加：１名　計６名 　　欠席２名 ●【学校評価部会】 １　会長あいさつ ・鈴木会長が年度のまとめとして、特別支援学校の名称変更に伴う役割の変化について言及。 ・言葉の使い方や支援の重要性についての考えを共有。		

	２　校長あいさつ ・廣瀬校長が欠席者（木村委員、榊原委員）の報告と、リモート参加者（牛腸委員）への感謝を述べた。 令和 6 年度の最終協議会であり、令和 7 年度に向けた意見を反映する旨を説明。 ・廣瀬校長が学校の現状と来年度の見通しについて説明。 ・児童生徒数の増加（271 名から 286 名）と教員配置の課題。 ・今年度の振り返りとして、インフルエンザやコロナの影響、教員の体調不良について報告。 ３　学校評価部会（別紙資料を基に説明） ・杉山副校長が学校評価の年度末評価について説明。 ・教育課程・学習指導:授業改善、ICT 機器の活用、個別最適な学びの充実。 ・児童生徒指導支援:個別教育計画の運用、専門職との連携、　支援方法の改善。 ・進路指導支援:キャリア教育の充実、保護者への進路情報提供、福祉制度説明会の実施。 ・地域との共同:インクルーシブ教育の推進、地域との連携、　人的交流の実施。 ・学校管理・運営:防災教育の充実、不祥事防止、働き方改革の推進。 ＜意見交換＞ 牛腸委員:支援学級の子供たちが通常学級の子供たちを招いてイベントを行うことについて、通常学級の子供たちからどんな感想があったかを質問。 三輪総括教諭:ボッチャ大会の例を挙げ、子供たちが「公平」と「平等」の違いを理解し、支援が必要な子供たちへの配　慮が自然にできるようになったことを報告。子供たちが互いの違いを受け入れ、協力する姿勢が見られた。 山崎委員:他の学校にもこのような取り組みを広げる計画があるかを質問。 三輪総括教諭:小田原市教育委員会や県の特別支援教育課と連携しており、今後の展開についても検討中であることを説明。具体的には、出張授業や巡回相談の実施を考えている。 鈴木会長:教職員ネットワークのチャット機能の活用について詳細を質問。

	杉山副校長:Teams を活用し、業務ごとにグループチャットを設定して効率的な情報共有を行っていることを説明。会議時間を設けずに即時にやり取りができる点が利点であるが、勤務時間外の対応については注意が必要であることも指摘。 川端副会長:開始時間を周知せずに実施した防災訓練の様子について質問。 廣瀬校長:大きな混乱もなく、想定の時間内に避難が完了したことを報告。特に車椅子の児童への対応については、教員が協力してスムーズに行えたことを説明。 安藤委員:居住地交流の取り組みについて、保護者としての視点からの意見を述べ、福祉制度説明会の参加者が少ない理由についても言及。地域の福祉制度に関する情報提供の重要性を強調。 山崎委員:支援学級の教員が相談しやすい環境の整備について意見を述べ、支援教育のシステムの改善を提案。 ４　児童・生徒の様子・・・パワーポイント資料を基に説明。 ＜休憩＞ 11 時 5 分まで休憩を取り、その後部会に分かれて議論を継続。 ●【部会会議】 ・【切れ目ない支援部会】 参加者３名、欠席者１名　　事務局　２名 ＊各支援機関の連携等において、障害児者をとりまく様々なお立場での気づきやご意見をお聞かせください。 山崎委員 ・新就学に関して、支援学校を希望していても地域の小学校の判定になったり、支援級を希望していても通常級の判定になったりということがあり、母たちは疲れている様子。心配しているのは、入学後支援をつなげていけるかどうか。 ・支援シート、発達検査の結果を活用できていない学校もあると感じる。学校により差がある。 ・中学校で保育所等訪問利用 3 件。交流級での授業に参加するには、1 人で交流級に行けるのが条件という学校もある。 三輪総括教諭 ・３学期、引き継ぎを見据えての巡回相談の依頼が数校から来ている。担任一人に任せるのではなく、支援級全体や、教育相談 Co.が中心になって取り組んでいる学校は、引継ぎもスムーズで支援体制もしっかりしているという印象である。

	川端副会長 ・成人期だと本人の意思決定が重要。時間と共に表出が変わってきた時に学校に連絡して情報共有する。数年前より意識の変化があり、連携がスムーズと感じる。 牛腸委員 ・医療の連携では、クリニカルパスというものがある。同じ書式で情報を書いて繋げる。1990 年から取り組んでいるもの。病院ほど確固たる書式は作られていないが、教育現場でもある程度共通の書式があると良いのではないか。 ・学校評価報告書の１教育課程　学習指導　②校内評価・・・ICT 機器の利活用の活用場面や有効性を検証しとあるが、具体的にどのように検証しているか？医療の現場では、アセスメントシートがあり、具体的に客観的に評価している。→来年度へ向けて、本校では ICT 機器（デジリハ、視線入力も含む）などの活用を推進する取り組みを進めていく方向にある。校内研究でも取り扱う方向で、今後、検証方法については、ご意見を参考に進めていきたい。現在は個別の教育計画の検討の時にクラスや学年などで共有、検討し、保護者とも確認している。 川端副会長 ・人的交流による研究は　実践的に進んでいるという印象。 ・外部作品展示について、足柄上郡での展示の機会があまりないと感じる。南足柄市や足柄上郡でも展示等、設定してもらえれば。全体的に小田原市が中心という傾向があるように感じる。 山崎委員 ・ほうあんなぎさの情報をほうあんうみ・ふじに繋げられないか検討している。医療的ケアのマイライフブックのようなものあれば。しかし、あまりマイライフブックを活用している方は少ない。 ・就労移行支援を利用している方、本人と事業所で進路の検討を進め、保護者は進路決定などに関わらないというケースもある。 ・【防災部会】 参加者２名、欠席者１名　　事務局　３名 1.令和６年度の取り組み（報告） ・R6 年度防災関連行事実施報告→別紙のとおり ・PTA 防災予算で購入したもの→別紙のとおり ・購入したテント、担架、防災物品を提示し、確認してもらった。 2.湯河原校舎・大井分教室について

	＜湯河原＞ ・自衛隊とつながることができ、次年度は防災について一緒に学習する場面を作っていきたい。 ・備蓄食料について。児童生徒分は本校より分けてもらったが、職員分は 3 日分の備蓄はない。少しずつ整備していく。 ＜大井＞ ・R8 年度に大井高校がなくなることを踏まえ、使えるエリアが広がっている。今年度は 2 階が使えるようになった。 ・非常用電源も設置され、支援学校用の仕様になりつつある。R7 年度は 4 クラス予定だが、R8 年度は 6 クラスの予定。 ・防災に関しては地震だけでなく、すぐそばを流れる酒匂川の土手の決壊も想定して、水害対策も防災対策の中に想定しておく必要がある。 3.次年度に向けて ・自衛隊とのコラボレーション（湯河原） ・R8 年度に向けた防災体制の準備（大井） ・危機管理マニュアルを取りまとめて提示します（全体） 4.情報交換・意見交換 ・災害時のトイレについて→次年度のテーマ ・どこに、どのように設置するのか。 ・児童生徒への周知は？訓練？授業？展示？ ・職員向けに使い方の研修が必要？ ・自治会の防災担当に来ていただき、話をする機会を作っていけると良い。 ●【学校運営協議会】 ＜切れ目のない支援部会の報告＞ 三輪総括教諭：「切れ目のない支援部会」１年間の取り組みについて報告 ①支援シートの難しさ ②意思決定の重要性 、 ③医療との連携 ④ICT の活用→現在取り組んでいるが一人一台端末の活用は次年度も重点項目 ⑤足柄上地区での作品展示の機械が増えると助かる ⑥医療的ケアを含めてマイライフブックの活用など ＜防災部会の報告＞

	府川総括教諭：防災部会の 1 年間の取り組みについて報告。 ・PTA の予算（年間 10 万円）で購入した防災物品（防災用テント、防災用担架）について説明。 ・各校舎からの報告として、次年度に自衛隊とコラボレーションした取り組みを予定していることを紹介。 ・大井分教室では、令和 8 年から多い高校がなくなるため、エリアが広くなることに伴う課題について来年度検討する必要があると報告。 ・トイレの問題について、備蓄食料は整っているが、トイレの設置場所や使い方の説明が不足しているため、来年度の課題として取り組む必要があると指摘。 ＜意見交換＞ 牛膓委員：アンケートから学校と保護者が連携して支援している。生活も含めて支援する日宇町があるので、保護者と連携をとる必要があるのだが、こちらも参考になる部分が多かった。 山崎委員：いろいろな支援を取り組めていてよい。それを地域　に広げていくことでセンター的機能になっている。どこでも平等に教育が受けられる、学校に行く意味のあるようにしていってほしい。 安藤委員：こどもの SOS の発信を受け止めてくれる場所であってほしい。 川端副会長：コロナの 5 類移行から実践的でスピード感を持って取り組んでいる。協力できる点があれば言ってください。 鈴木会長：少子化の時代なのに支援学校の児童生徒は増えている。今まで取り組んでいることが評価されているということだけど、本当はそうじゃない。どこにいっても支援が受けられるようになっていくとよい。 鈴木会長：質問です。中高のアンケートはどのようにとったの　でしょうか？ 杉山副校長：知的部門の生徒で絵文字や〇で判断できる生徒、聞き取りで回答できる生徒を対象に調査しました。 鈴木会長：これは大事なこと。小田原支援学校はどんなところ　かわかっている。こういう場で発表でき、子どもにも返す。フィードバックが自立と成長に結びつく。広く深く考えて取り組んでいますね。 廣瀬校長：来年度に生かして、より良い学校づくりに取り組みま

	す。